

非鉄金属レポート

ロンドン金属取引所（LME：London Metal Exchange）～2005年7月の動向

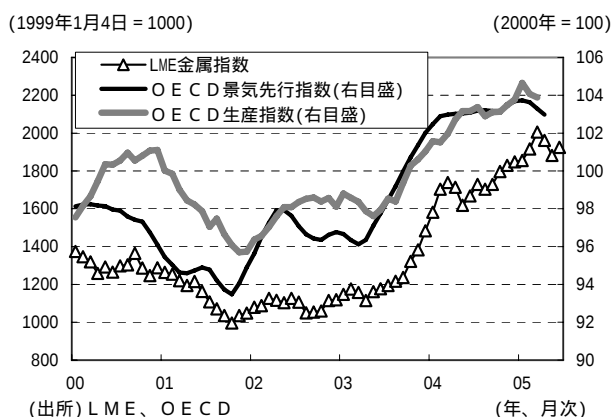
【概況】

7月の非鉄金属市況は、銅は上値を追う展開、アルミが底打ちの動き、亜鉛は下げ止まり、ニッケルが下落、となった。非鉄市況全般の動向を表わすLME金属指数の動きをみると、銅、アルミを中心に上昇し、4月の高値に迫っている(図表2)。

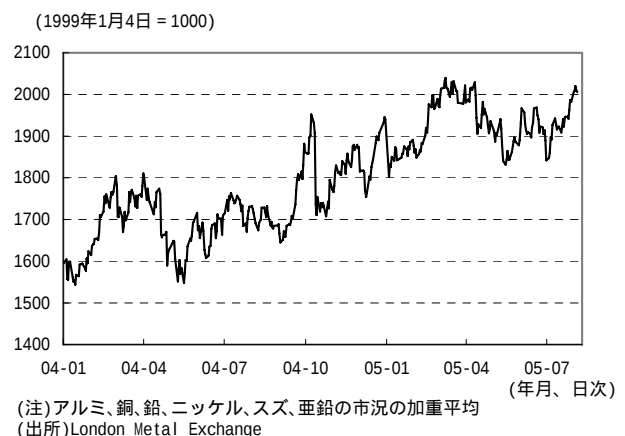
7月7日の英国でのテロ発生後は、一時的に金などへの逃避が起こり非鉄市況は下落したが、大きな動きにはならなかった。ストライキ、精錬所閉鎖など供給要因が相場上昇のきっかけをつくり、21日の人民元の切り上げは、中国の需要を喚起すると評価された。月末にかけて、先進国の景気再加速期待も強まった。

今年の世界経済の拡大ペースは年初時点での見方に比べ下方修正されているが、大幅失速の懸念は小さい。非鉄金属全般に需要超過の状態がしばらく続くと見られ、景気再加速期待が強まったり、ストライキや事故などにより供給懸念が強まったりすれば、市況に上昇圧力がかけやすい状況が続いている。

図表1．LME金属指数と世界景気



図表2．LME金属指数(日次データ)



【品目別の動向】

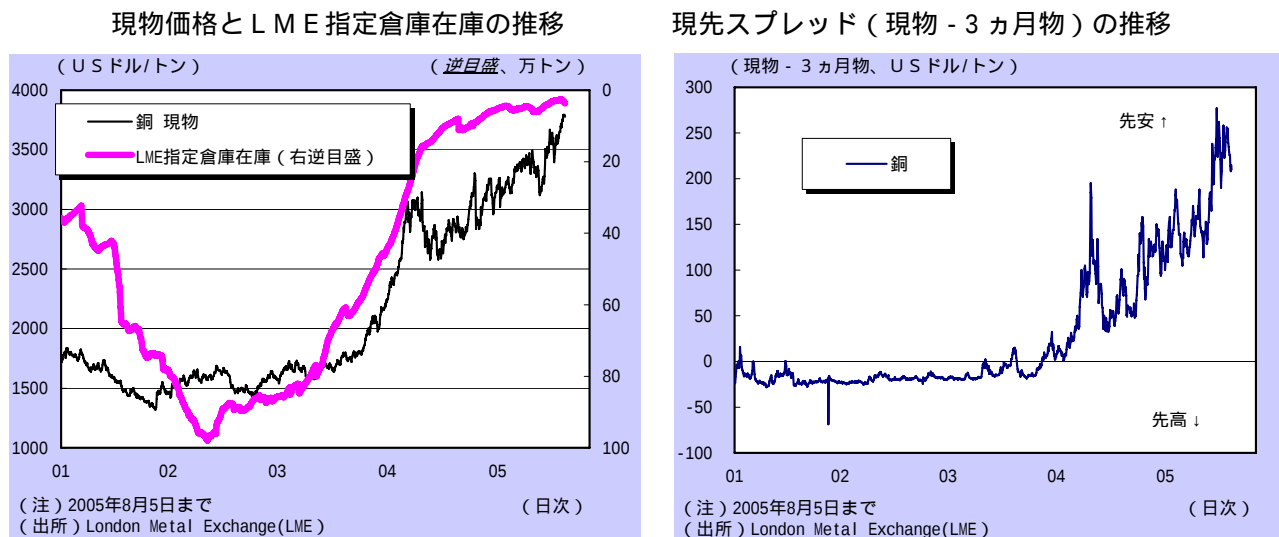
銅～高値更新

銅相場は、高値を更新している。3ヵ月物は8月3日に3586ドル/トンをつけた。需要が供給を上回る状態が続いており、在庫は31年来の低水準にある。相場は在庫の減少に合わせて価格が上昇する状況が続いている。

チリの鉱山でのストライキは12日に、ザンビアの鉱山のストライキは20日に終結したが、米国のアリゾナ州やテキサス州でのストライキは未解決であり、供給に対する懸念を強めている。

来年にかけて、チリやオーストラリアの鉱山開発が進むことや中国の精錬所の増加が続くため、需給の逼迫は緩和される可能性があるが、8月以降は中国の季節需要がエレクトロニクス関連の生産などに合わせて立ち上がってくる時期であり、需給は当面、タイトな状態が続くであろう。

図表3．銅



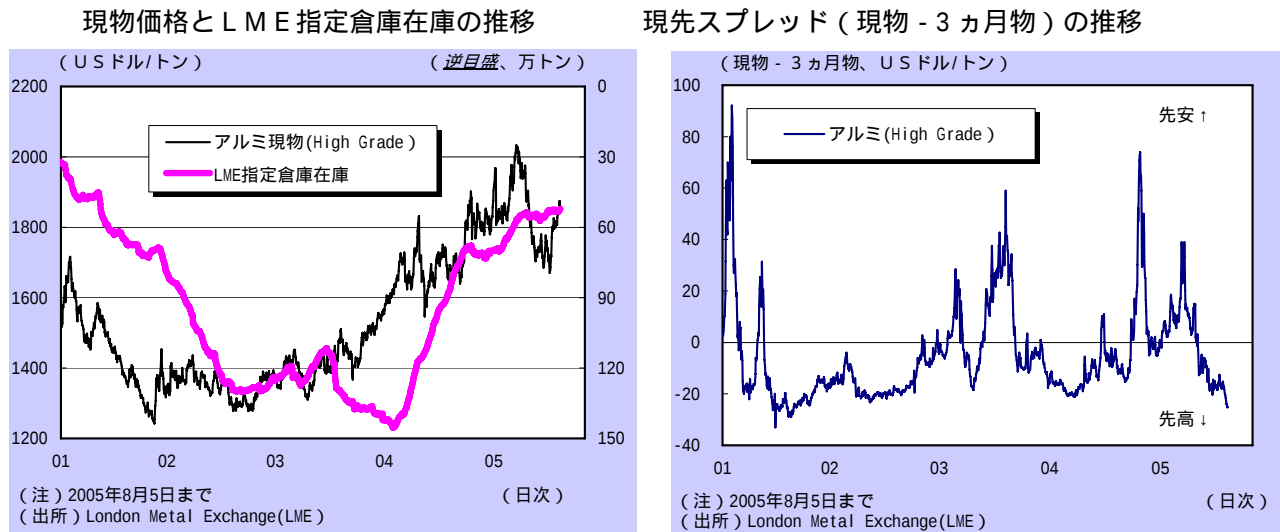
アルミ～底打ちの動き

アルミニウム相場は、最大の生産国である中国の供給力増加見通しなどを背景に下落が続いていたが、7月になって底打ちの動きが出ている。3ヵ月物は1日に1688ドル/トンと安値を更新した後、上昇に転じている。欧州ではドイツを中心に電力料金の値上がりからアルミ精錬所の閉鎖が相次いでおり、今後、さらに閉鎖が広がる可能性が出ている。また、中国政府はアルミ精錬事業を引き締めの対象とみなしており、20日には原材料であるアルミナの輸入に課税することを決定した。米国では25日にニュージャージー州のアルミ精錬所で事故が発生し、生産活動を停止している。

アイスランド、カタル、南アフリカ、ガーナといった電力の豊富な地域での新工場の建設が計画されているが、本格的に生産が立ち上がるのは2007～9年となる。

中国の生産能力の拡大により、他の非鉄金属に比べ足元の需給は緩和気味であるが、缶、窓のサッシ、自動車や航空機向けなど需要は拡大している。価格の本格上昇には、時間がかかる可能性もあるが、3月以来続いていた下落相場は底を打ったと考えられる。

図表４．アルミニウム

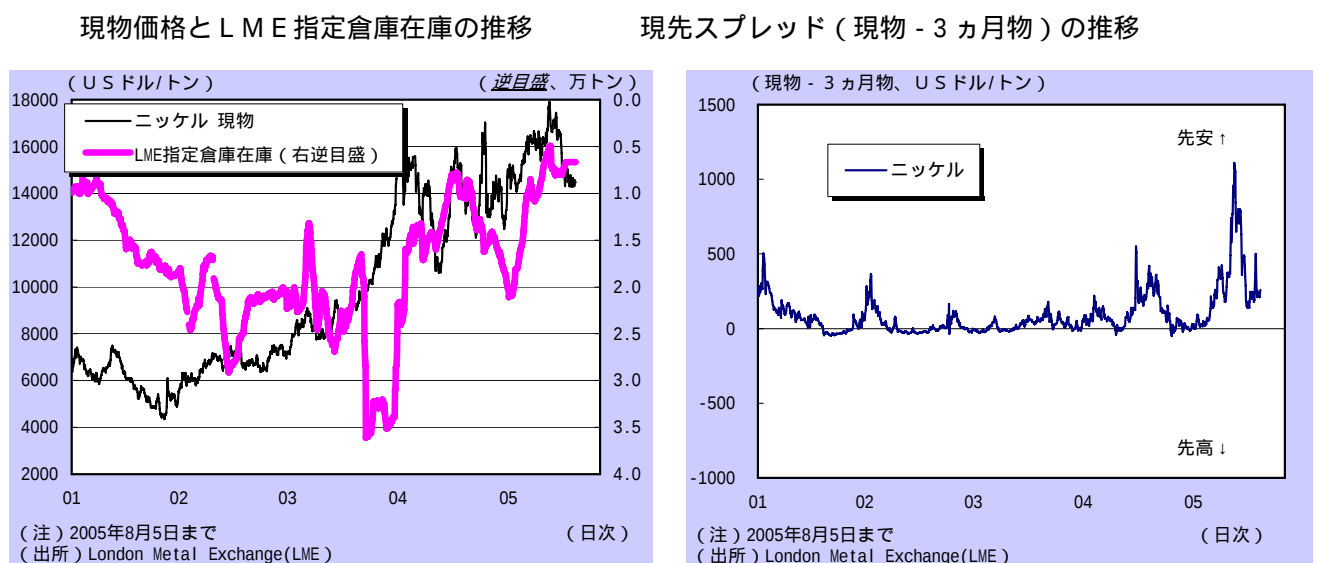


ニッケル～下落

ニッケル相場は、ステンレス向け需要の減退を懸念して弱含みの推移が続き、3ヵ月物は7月25日に14025ドル/トンまで下落した。6月に中国のステンレス鋼メーカーがステンレス鋼の価格引き下げや生産抑制の計画等を相次いで発表したのに続き、7月はじめには台湾メーカーや韓国メーカーも減産を発表し、7月後半には日本メーカーも追随した。一方で供給サイドをみると、事故により生産が大幅に減少していたオーストラリアの鉱山が8月以降にフル生産に戻るとみられる。

ただし、需要の減退や生産の回復にもかかわらず、当面のニッケル需要は生産を上回るとみられている。オーストラリア、ニューカレドニア、ブラジルの鉱山開発計画が発表されたが、生産が立ち上がるのは2007～8年の見込みである。ニッケル価格は今後下げ止まってくるとみられる。

図表５．ニッケル

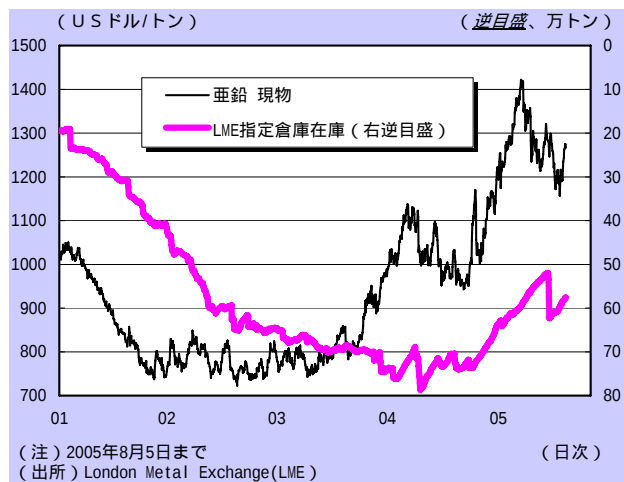


亜鉛～下げ止まり

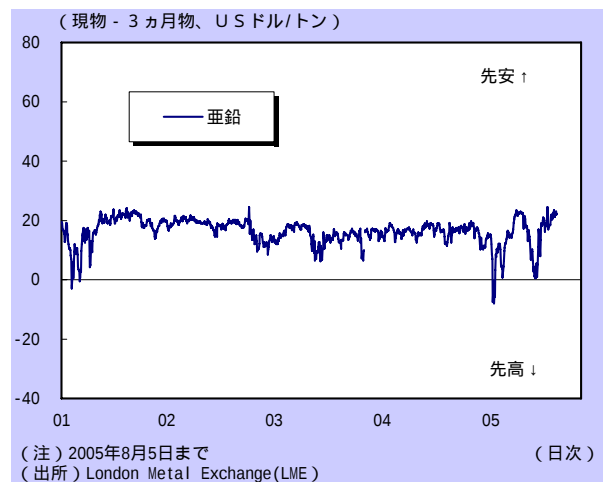
亜鉛相場は7月中旬を底に持ち直しつつあり、今年3月からの下落傾向に下げ止まりの動きが出ている。6月中旬にLME指定倉庫の在庫が急増したことから足元の需給悪化が懸念され相場は下落基調となり、3ヵ月物は7月18日の1156.3ドル/トンにまで下落した。しかし、2004年に比べ伸びは鈍化するとはいえ、中国を中心に自動車や電気機器のメッキ向け需要が堅調であり、2005年は需要が生産量を上回るとみられている。20日にはカナダの精錬所でのストライキを材料に反騰した。一方で、インドの精錬会社が2006年より新設備での生産を開始するなど能力増強の動きも出ており、相場の上値は重いであろう。

図表6．亜鉛

現物価格とLME指定倉庫在庫の推移



現先スプレッド(現物 - 3ヵ月物)の推移



【問い合わせ先】

UFJ総合研究所 調査部(東京) 芥田

E-mail : tomomichi.akuta@ufji.co.jp

本レポートは情報提供を唯一の目的としており、何らかの金融商品の取引勧誘を目的としたものではありません。
また、掲載された意見・予測等は資料作成時点での判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。